

入学前教育課題確認テスト成績の学生指導基準としての有効性

The effectiveness as the guidance standard of the assurance test results for assignment of pre-entrance education

溝田 勝彦

KATSUHIKO MIZOTA

要旨：[目的] 入学前教育の一環として行っている入学前課題に対する確認テストの成績と、1年前期の専門科目及び専門基礎科目の成績を比較し、入学後の学生指導の在り方を検討することである。[対象] 2014年度当学科入学者83名（理学療法学専攻45名，作業療法学専攻38名）である。[方法] 入学前課題の確認テストの成績とリハ概論の成績（復習テスト，前期試験）及び解剖学の成績（骨学，筋学）との関係を Pearson の相関係数を求めて検討した。また，解剖学2科目とも合格者，1科目のみ合格者，2科目とも不合格者の3群に分類し，確認テストの成績に差があるか検討した。[結果] 確認テストとリハ概論復習テスト及びリハ概論前期テスト，確認テストと解剖学（骨学及び筋学）の成績との間に有意な相関が認められた。また，解剖学2科目合格群と2科目不合格群，解剖学2科目合格群と1科目合格群の確認テストの成績に有意な差が認められた。[考察] 今回の結果は，確認テストの成績がリハ概論や解剖学の成績にある程度反映することを示しており，確認テスト成績不良者に対して入学後早期から介入することで，特に解剖学の成績不良を回避できる可能性があることが示唆された。

キーワード：確認テストの成績，リハ概論の成績，解剖学の成績

はじめに

18歳人口は，戦後2回目のピークであった1992年を境に減少の一途をたどっているが，大学志願者も同様に1992年をピークとして減少している。そのため，特に私立大学では入学定員確保のため，AO入試の導入と推薦入試をすすめる。その結果AO入試，推薦入試を経由した入学者が大きく増加している。特にAO入試による合格者の割合は，平成12年度（AO入試調査開始年度）の1.4%（8,117人）から平成24年度は8.5%（50,626人）と大きく増加している（文部科学省 2013）。この傾向は理学療法士・作業療法士養成校においても同様であり，早期に合格を果たす学生の割合が年々増加している。また一方では，学生の基礎学力低下が指摘されており，全体の50%以上が「大学の授業に行けるか不安」と答えている現状がある（三吉ら，

2005）。

当学科では，学生の合格決定後の学習意欲の継続，大学での専門教育へのスムーズな移行を目的として，開設2年目の2008年から当該年度入学予定者に対して入学前セミナーを実施し，2010年からは入学前課題を与えるなど入学前教育に取り組んでいる。特に，推薦入試やAO入試で合格した学生は，合格決定から入学までの期間が約4か月半あるため，入学前課題は必須であると考えられる。入学前セミナーの内容や入学前課題についてはこれまでに報告を行ってきたが（溝田 2009，2010，溝田ら 2011），今回，2012年から実施している入学前課題の確認テスト（以下，確認テスト）と1年前期のリハビリテーション概論（以下，リハ概論）及び解剖学の成績を比較し，入学後の学生指導のあり方を検討したので報告する。

受付日：平成26年9月8日，採択日：平成26年9月30日

西九州大学リハビリテーション学部

Faculty of Rehabilitation Sciences, Nishikyushu University

対象

2014年度当学科入学者83名（理学療法学専攻45名，作業療法学専攻38名）である。

方法

入学前課題は、『上田敏著の「リハビリテーション」（講談社）を各自購入し，p 5～p 95までを入学までに熟読すること』である。入学試験合格者に対して，大学からの入学手続きの書類送付時に入学前セミナーの案内と入学前課題についての文書を同封し，入学前課題については，入学後の新入生オリエンテーションで確認テストを実施することを伝えた。確認テストは記述式で20点満点であるが，20問中，短い文章で答える問題が3問で，残りは全て単語で答える問題とした。

確認テストの成績とリハ概論の成績（毎回の復習テスト成績，前期試験成績）及び解剖学の成績（骨学，筋学）との関係は Pearson の相関係数を求めて検討した。また，解剖学の成績を2科目とも合格者，1科目のみ合格者，2科目とも不合格者の3群に分類し，確認テストの成績に差があるか否かについて一元配置分散分析および Bonferroni の多重比較検定を行って検討した。統計解析には StatView5.0を用い，統計的有意水準は5%とした。

結果

各テストの成績間の相関行列を表1に，解剖学の成績別の確認テストの成績を図1に示す。確認テストの成績がよい学生ほどリハ概論や解剖学の成績が良かった。また，解剖学の成績別の確認テストの中央値（四分位範囲）は，2科目合格群11.3（2.5 19.5）点，1科目合格群9.0（5.0 11.5）点，2科目不合格群6.5（2.0 16.0）点で，2科目合格群と2科目不合格群の確認テストの成績に1%水準で，2科目合格群と1科目合格群の確認テストの成績に5%水準で有意な差が認められた。1科目合格群と2科目不合格群との間には有意な差は認められなかった。

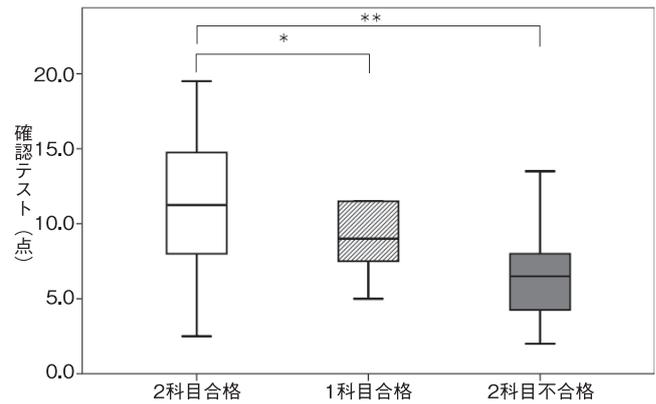


図1 解剖学成績別の課題確認テスト結果

考察

理学療法士・作業療法士養成校においても一般大学と同様，少子化と養成校の増加により定員確保が厳しい状況となり，定員確保のためにAO入試や推薦入試によって早期に合格を果たす学生の割合が増加している。しかし，「大学生が振り返る大学受験調査」によれば，推薦・AO入学者の約半数が，高3時の学習時間が1日1時間未満であり，「受験対策をしなかった」比率も5人に1人にのぼるなど，受験期の学習習慣が確立されぬまま大学へ進学している。また，入試難易度別に見ると，偏差値が低いほど「1日1時間未満」の比率が高まっていると報告されている（ベネッセ教育総合研究所 2012）。加えて学生の基礎学力低下も指摘されて久しい。そのような状況を受け，約6割の大学が入学前教育を実施している（Guideline 2011）。その目的は，合格後から入学までの間のモチベーションの維持，事前に養成校での学びを知る，養成校での学びに対する不安の解消等である（Guideline 2008）。

理学療法士・作業療法士養成校においても，多くの養成校が入学前教育に取り組むようになっている。当学科においては開設2年目の2008年より入学前教育に取り組んでいるが，未だ試行錯誤の状況にあり効果的な入学前教育を模索中である。そのような中，現在実施している課題確認テストの成績が，入学後の学生指導の基準となり得るか否かを確認するため，確認テス

表1 各テストの成績間の相関行列

	入学前課題確認テスト	リハ概論復習テスト	リハ概論前期テスト	解剖学（骨学）
リハ概論復習テスト	0.60**			
リハ概論前期テスト	0.54**	0.87**		
解剖学（骨学テスト）	0.55**	0.74**	0.77**	
解剖学（筋学テスト）	0.50**	0.68**	0.73**	0.78**

** : $p < 0.01$

トの成績とリハ概論および解剖学の成績との関係について検討した。その結果、確認テストの成績がよい学生ほどリハ概論や解剖学の成績が良く、単位を修得できていることが確認された。

今回の結果は、確認テストの成績が1年前期の専門科目であるリハ概論や、専門基礎科目である解剖学の成績にある程度反映することを示唆しており、確認テストの成績は学生指導の有用な参考資料として利用できると思われる。つまり、確認テストの成績が悪くなかった学生に対しては確認テスト終了後の早期から介入することで、特に、解剖学の成績不良を回避できる可能性があることが示唆された。長ら（2010）は、入学前課題と入学後の学内成績との間に有意な相関を認めたと報告している。課題内容（読書感想文、骨格スケッチ）、入学後の成績（1年次前期の体験実習成績）ともに本学科とは異なっているため、本学科の取り組みと同様に論じることはできないが、入学前課題にまじめに取り組んだ学生は、1年前期の座学においても実習においても成績が良好であったという結果は興味深い。

一方、受験対策において「あきらめずに努力し続けた」学生ほど大学への満足度が高く、特に、推薦・AO入学者の中で「あきらめずに努力し続けた」学生の大学への満足度や学びへの意欲は、一般入試による入学者よりも高いという報告がある（ベネッセ教育総合研究所 2012）。合格決定者の中でも、入試のために準備をした学生は、入学前課題に対しても努力すると考えられ、その学習への態度が入学後の成績にも反映されていると判断できる。一方、確認テストの成績が不良であった学生はその逆に、1年前期の成績不良へとつながったと推察される。確認テスト成績不良者に対しては、早急に学習習慣が身につくように入学期からの介入の必要があると考える。

・ 結 語

確認テストの成績は入学後の成績の予測指標となる。確認テストの成績不良者に対しては、入学後早期から積極的な介入を行う必要がある。

引用文献

- ベネッセ教育総合研究所（2012）<http://berd.benesse.jp> 閲覧日 2014.9.2
- Guideline（2008）<http://www.keinet.ne.jp/gl/2008.html> 閲覧日 2014.9.2
- Guideline（2011）<http://www.keinet.ne.jp/gl/2011.html> 閲覧日

2014.9.2

- 溝田勝彦（2009）入学前セミナーの実施．リハビリテーション教育研究 14：65-67．
- 溝田勝彦（2010）入学前セミナーの実施 - 続報 - ．リハビリテーション教育研究 15：49-52．
- 溝田勝彦，ら（2011）入学前教育の試み - 入学前ドリルを用いて - ．リハビリテーション教育研究 16：47-48．
- 三吉友美子，ら（2005）入学前教育の試み - 推薦入学者への入学前課題の実施と評価．看護教育 46：896-900．
- 文部科学省（2013）<http://www.ksntei.go.jp/jp/singi/kyouikusaicei/dai11/sankou2.pdf> 閲覧日2014.8.18
- 長彰純，ら（2010）入学前課題と入学後学内成績との関連．リハビリテーション教育研究 15：142-145．